

<H11-5-A : 問題>

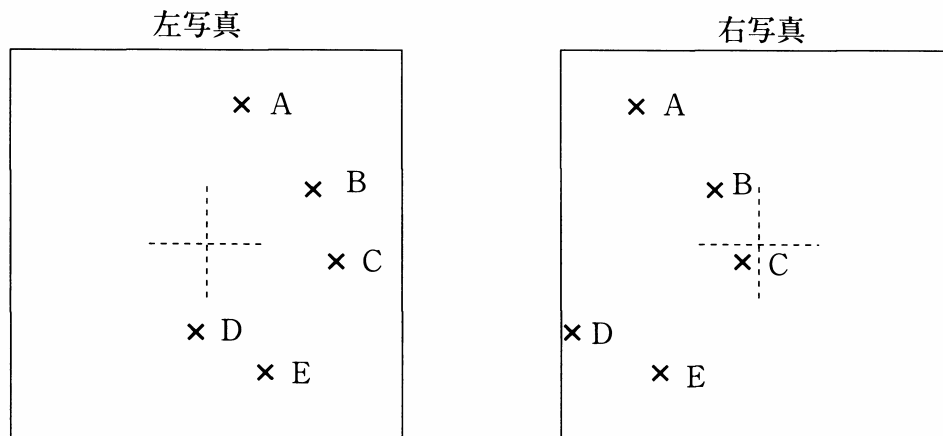
画面距離 15cm、画面の大きさ 23cm×23cm の航空カメラを用いて、縮尺 1/30,000、オーバーラップ 60%、サイドラップ 30%で、平たんな広い土地の鉛直空中写真の撮影を計画した。撮影計画コースを縮尺 1/50,000 の地形図上に記入するとき、そのコース間隔は図上でいくらになるか。最も近いものを次の中から選べ。なお、関数の数値が必要な場合は関数表を使用すること。

1. 4.1cm    2. 5.5cm    3. 6.3cm    4. 8.3cm    5. 9.7cm

<H11-5-B : 問題>

図 5-1 は、60%のオーバーラップのある一組の鉛直空中写真を縦視差のない状態に置いたものである。地上の目標物 A～E が左右の写真に図のように写っていたとき、地上で最も高いものはどれか。次の中から選べ。

1. A    2. B    3. C    4. D    5. E



(写真中央の破線は主点を示す)

図 5-1

〈H11-5-C : 問題〉

標準的な公共測量作業規程に基づいて実施した空中三角測量作業において、基準点残差(基準点成果と調整計算結果の差)を点検したところ一部が制限値を越えていた。その原因とは考えられないものはどれか。次の中から選べ。

1. 入力した基準点の座標値に誤りがあった。
2. 入力した番号と違う基準点を測定した。
3. 対空標識を設置した位置の偏心計算に誤りがあった。
4. 空中写真上での測定に誤差があった。
5. 図化縮尺の設定に誤りがあった。

<H11-5-D : 問題>

空中写真測量により縮尺 1/2,500 の地形図を作成するため、対空標識を設置した。次の文は、その状況を述べたものである。対空標識の設置方法が適切でないものはどれか。次の中から選べ。

1. 正方形の板の中心が偏心点である標杭の真上にくるように設置した。
2. 基準点が林の中にあったため、近くの樹上に付近の樹冠より 50cm 高くして設置した。
3. 天頂からおおむね 45° 上空視界を得るため、池のすぐ近くに偏心して設置した。
4. 風などで破損されないように堅固に設置した。
5. 建物の屋上では、床面よりも少し高くして設置した。